



銃弾の跡が残るシオン門



マリア永眠教会



眠るマリア像(桜と象牙製)



「最後の晩餐」の部屋



ダビデ王の墓

をそろえ、現在もアラブ人の土地所有者と折り合いをつけながら、考古学による発掘、調査の研究を重ねて、遺跡の真価を正している真っ最中なのです。あちこちで掘り返しています。

その意味で次に見学したイスラエル博物館は非常に充実していると思います。なんとといっても、死海写本が見つかり、それは最高の宝と言っていいでしょう。1947年にクムランで羊飼いの少年が発見しました。イザヤ書、詩編など、紀元前250年から陥落の70年までに記された、600を超える羊皮紙、またパピルスの巻物があるのです。小さい美しい文字で書かれて



死海写本館

ユダヤ人地区で豪華なコース料理を食べた後、ひっそりとしたアルメニア人地区の南のシオン門から、シオンの丘方面に出ました。シオンと言えば、エルサレム、丘と言えば神殿の丘を指すはずですが、シオンの丘という場所が別にあるのです。長年、異教徒のもと、瓦礫と共に放置され、勘違いで命名されたそうです。イスラエルがこの旧市街を占領できたのは1967年とのことです。仕方ありません。

シオンの丘に建てられたマリアを記念する「永眠の教会」へ行きました。この場所は、1898年にオスマン帝国君主から、ドイツ皇帝に与えられ、それをカトリック教会に寄贈し、1910年に完成した、エルサレムで最大の教会堂です。イスラエルではマリアはわずか50歳で亡くなり、ゲッセマネの園のすぐ傍の地に葬られたという伝説があり、4世紀にその墓の上に教会が建てられました。一方、マリアがエフェソに行ったという主張は『見なさい。あなたの母です。』その時からこの弟子(ヨハネ)はイエスの母を自分の家に引き取った(ヨハ 19:27)に根拠を置くものです。ヨハネが供の者と二人でエフェソへ向かったという記録がありますが、マリアの死、埋葬に関する伝説は全く見つかっていないとのこと。眠るマリアを見守るように、旧約の女性、エバ、ルツ、ミリアム、ヤエル、ユデト、エステル、モザイクが天蓋に飾られています。

シオンの丘のすぐ西に、十字軍の時代に建てられた「最後の晩餐」の部屋があります。天井の高い、石造りの立派な部屋ですが、イスラムの寺院として用いられていたため、コーランが美しく装飾的に書かれたステンドグラスがあり、綺麗でした。

このすぐ傍のシナゴグの一室にダビデの墓があります。狭い部屋に石棺があり、その上に綺麗な長い箱が置かれていました。見学はなぜか、男女別の仕切り板で区切られて別々にしなければなりません。シオン門を出てすぐ、ダビデの墓があるため、シオン門はダビデ門とも呼ばれています。南側の城壁の外の斜面に、ベン・ヒノムの谷(ヨシ 15:8)を真下に見るダビデの町が発掘されています。ギホンの泉、シロアムの池もありますので、この辺が発祥の地(サム下5:7)でしょう。

何しろイスラエルは1948年建国ですから、伝説に基づいて、遺跡

を見学しました。もっと時間をかけて丁寧に見てみたいと思いました。けれども、キリスト教とイエス様に関するものはあまりないのではないかと思います。